



リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月
コンサベーション・インターナショナル



保全契約の更新

Gbobayee 村、Yolowee 村と保全契約を更新しました。署名は、両村の村長、郡政府、県政府、森林開発局、東ニンバ自然保護区共同管理委員会、CI リベリアの間で行われました。



Gbobayee 村で行われた署名式

生計向上活動（養豚）

Gbobayee、Yoloweeno の 2 村では代替生計手段として養豚を導入しました。この地域では、これまで野生の肉を主なたんぱく源としてきたのですが、養豚は野生生物の捕獲を減らし、さらに現金収入を増やす活動として期待されています。

昨年は、豚の数が 12 から 34 頭に増加し、26 名の飼育農家（Gbobayee 村 12 名、Yolowee 村 14 名）が飼育研修を受け、餌のやり方、飼育小屋の衛生管理、病気の見分け方、ワクチン接種、個々の豚の衛生管理などについて学びました。



母豚と子豚たち

また、豚の飼料を確保するため、5.5 エーカー（Gbobayee 村 2.5 エーカー、Yolowee 村 3 エーカー）の土地を耕し、キャッサバ、ジャガイモ、葉物などの野菜を栽培しました。



ジャガイモ畑（Yolowee 村）



キャッサバ畑（Yolowee 村）



キャッサバ畑（Yolowee 村）



キャッサバ畑で豚の飼育研修を受ける農家

生計向上活動（稲作）

Gbobayee 村では、低地稲作の技術向上トレーニングが行われ、20人の住民が参加しました（男性16名、女性4名）。リベリアではコメは一般的に食べられていますが、多くが輸入品であるため、村のコメの自給率を高めることが目的です。昨年度のトレーニングでは、9つの圃場を作り、苗床の育成、田植え、収穫まで一通りの稲作について技術を習得することが出来ました。



水田の様子（Gbobayee 村）



コメの収穫（Gbobayee 村）

Yolowee 公立小学校の改修工事

Yolowee 小学校の 4 つの教室で、改修工事が行われました。この小学校は先日公立校の基準を満たし、今回は屋根の修復、メッキ処理、しっくい塗り、窓やドアのはめ込み、塗装などを行い、きれいな校舎へ生まれ変わりました。加えて、机 30 台、黒板 3 つ、事務室用の机などが新たに備えられました。

また、新型コロナウイルス対策として、蛇口つきのポリバケツ、塩素系漂白剤、ビニール手袋など必要物資を Yolowee と Gbobayee 村に寄付しました。



Yolowee 小学校での改修工事



新しく購入された机

保全契約のモニタリング

保全契約では、コミュニティの生計向上活動などを支援する条件として、東ニンバ自然保護区やコミュニティ林での違反行為を行わない等、森林保全への協力を求めています。そのため、森林保全が適切に行われているか、モニタリングも重要な活動となります。

昨年度は 25 名のフロントライン保護官（Gbobayee 村 12 名、Yolowee 村 13 名）がのべ 396 回のパトロールを行い、合計 42 の違反行為が確認されました。違反行為のうち 7 つは東ニンバ自然保護区内、35 つは周辺の森林で発生し、内容は農業、牧畜、狩猟、伐木となります。村人の協力により徐々にその数は減ってきていると言えます。



パトロール風景



新型コロナウイルス対策でマスクを着用してパトロール

今後の活動見込み

CI リベリアは、外部ドナーに当活動地域を対象とした REDD+プロジェクトのプロポーザルを提出しました。もし採択されれば、次年度より活動がスタートします。また、フロントライン保護官の活動を継続するため、IUCN にも別途プロポーザルを提出しました。こちらも現在結果を待っています。

※本文中の写真は©CI Liberia/ Photo by Alison Miah

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。